

S.H.O.T

J A P A N

Safety, Horseback riding, Outdoor, Technic & Cowboy Race.

2019年度 Cowboy Race 競技規定

ルールブック

2019 年度 改正版

S.H.O.T Japan 競技委員

2019年度 Cowboy Race 競技規定

本競技は アメリカのエクストリームカウボーイレースを元に AQHA、NRHA の規則基準を取り入れ日本式にアレンジ構成されたものであり、今後とも発展して行くものである。本競技規定は2014年度における競技規定とし、主催者、審査員で競技毎に協議し、より公平に審査する為に毎年または、必要に応じて改正して行くものとする。2019年改正版

目次

S.H.O.T Cowboy Race とは、	2ページ
競技規定	3ページ
審査基準	5ページ
クラス分け	9ページ
参加説明会と講習会	11ページ
表彰、抗議	12ページ
馬具と操作規定	13ページ
競技課目	15ページ
競技理念	20ページ

S.H.O.T Cowboy Race とは、

屋内外に捉われず、あらゆるコンディションにおける騎乗にて、馬の精神(メンタル)と運動能力(フィジカル)から誘導(コントロール)する技術(テクニク)と調教(トレーニング)の集約を競うものである。この審査基準は予め設定された障害課目コースを通過する事で審査される。

騎乗馬、騎乗者は如何なる場合も冷静沈着 且つ、騎乗馬は騎乗者の指示に素直に従い、すみやかに動く事が出来る状態でなければならない。騎乗馬はスムーズ且つ、スピーディに各課目を通過する事を理想とし、その調整、調教が如何なる場合に置いても保たなければならない。

開催地の特色を活かした課目など、普段練習する事の出来ないいわゆる想定できない課目を含む事が前提となっており、騎乗者、騎乗馬の真の技術を試す競技である。よって、安全面での万全は最重要視し、危険回避における主催者又は審査員の指示、規約、誓約は絶対であり、騎乗参加者はこれらの指示、規約、誓約に従い行動しなくてはならない。

騎乗者は如何なる場合も個々の技術面に沿って安全を最重視する。また、課目放棄、棄権は尊重されるものであり、主催者及び、審査員はこれを認めるものとする。

競技規定

- 1、本競技はあらゆる乗馬スタイルにも拘らず(和式、米式、欧州式他)、如何に騎乗馬を従順、冷静にコントロールし、スムーズ且つ、確実な上でスピードを持って規定課目を通過し、そのタイムを規定計算式にてポイントに置き換え、規定課目のポイントと加算して、その合計ポイントを競う。
- 2、一般的な乗馬要素に基づき騎乗者と騎乗馬を総合的に審査し、採点に置き換る。
- 3、基本馬術の審査基準対象はアメリカ式ウエスタン馬術(AQHA、NRHA)などに基づき構成された本協会の競技規定に従うものとする。
- 4、基本課目中、最低8課目の障害と追加課目として2~12課目までとし、全10課目以上20課目以下で行われるものとする。
(各課目は障害課目 P10 を参照)
- 5、コースは主催者の判断で無理危険のない範囲でレイアウトし、下記7の通りとする。
- 6、ホームとアウェイの不公平差を出来る限りなくす為、主催者はコースの事前告示を全ての参加者にしないものとする。但し、新しい障害を制作する場合は馬の調整を目的とし事前告知する事。(参加者を除く、互いの運営者のみ)
- 7、開催地、競技会場は主催者が判断するが、危険の無い範囲で特色に富んだものとし、最終的な規定課目及びコースは1名以上の参加団体代表又は審査員の承認を必要とする。
- 8、規定課目とコースに関して、競技参加者は馬の休みを入れた90分の騎乗練習を行っても良いものとする。オープン及びクラス A に関しては45分以下の騎乗練習とする。競技本選前の早朝練習(8:00~8:45)は土曜日に参加していない者と本選のみの参加者だけ行える。ただし、騎乗者及び指導者の徒歩によるコースの確認は自由とする。
- 9、競技開始後に安全を考慮しなくてはならない全ての場合において、開催主催者、審査員の判断で随時課目とコースの変更をすることが出来る。その場合、全参加者に説明をしなくてはならない。
- 10、競技者の服装はハット又はヘルメット、長そで襟付き、長ズボン、乗馬可能なブーツに限る。常に清潔なものとし、馬具においても安全かつ清潔なもので、米式、歐式、和式に囚われる事無い、正装に限る。

審査基準

- 1、本競技はコース入場より終了までのスピードをポイントに変え、その得点から各規定課目の採点を加減点した総合点(ポイント)を競い合うものとする。
- 2、総合ポイントの換算式はタイムに0.15をかけたもの(小数点以下4捨5入)をスピードポイントとして換算し、これに各障碍ポイントの合計を相殺して総合ポイントとし、ポイントの低い順(速い順)で勝敗が争われる。
- 3、各規定障碍課目に於いてはプラス2ポイントからマイナス5ポイントに分け加点減点法で審査する。
- 4、障碍課目ポイントの詳細は下記参照基準(表示と詳細)を目安にする。
- 5、障碍課目ポイントに於いて、審査員の判断により高ポイントにあたる評価で走行していても、走行終了までの間に著しく激しい行為で馬を誘導した場合、虐待とみなされる行為をした場合、人馬に拘らず危険と判断した場合、又は走行終了前後に矯正馬具の使用が確認された場合、その場で走行を中止し、失権とみなす。
- 6、競技をスタートしてから、予測不可能な馬具の突如破損。又、複数人で同一の馬を使用し、その際馬具の未調整による走行不具合がある場合は本人の自己申請により再スタートを認める。但し、再スタートは1回限りでその際 EP(+5点)がタイムに加算されるものとする。
- 7、ユース・C クラスのマウントは競技者が不可能と審査員が判断した場合、指導者が補助しても構わない。その際 EP(+5点)がタイムに加算されるものとする。
- 8、競技中の障害に対してのアプローチは3回までとする。

審査基準(表示と詳細)

VG	-2 点	非常に優れている	前課目から手前が整ったアプローチが確実に出来き、冷静沈着及び、安全で確実に課目を通過できる。ただし、直線に於いてアプローチ時の手前はその限りではない。
G	優れている	-1 点	前課目からのアプローチが確実に出来き、冷静沈着及び、安全で確実に課目を通過出来る。
A	普通	0 点	安全で確実に課目を通過する事が出来る。
P	劣る	+1 点	軽度拒否、軽度接触、走行ラインを外れる。
VP	非常に劣る	+2 点	拒否、接触、落下、規定通りの通過が不能、鐙が外れる、騎乗者もしくは馬が著しくバランスを崩した場合。走行中のレーンの持ち替え。

EP 通過不能、放棄 +5 点 通過不能、走行開始後の跛行、無理な急停止、立つ、跳ねる、著しく馬が暴れた場合。再スタート。補助。アプローチ 3 回。

F 失権 虐待行為、矯正馬具の使用、落馬、禁止行為出血、跛行、怪我、審査員と SHOT 役員が失権にあたと判断した場合。(失権は直ちに走行を中止しなくてはならない場合がある。)

Very Good = -2 Good = -1 Average = 0 Poor = +1

Very Poor = +2 Extremely Poor = +3 Fail = スコアなし

クラス分け

騎乗者及び、騎乗馬のクラスを個々に区分けし、その枠別に技術の水準を決めるものとする。

一般騎乗者

オープン 職業として馬に関わる、又は関わっていた者

クラス A 前年度クラス B の優勝者。競技上位者は任意にて

クラス B 前年度クラス C の優勝者。競技上位者は任意にて

クラス C 乗馬初心者、競技経験5回以内、中学生以上

ユースクラス 15歳未満の少年少女で乗馬経験者

年間を通してクラスを設定して参加すること。年間内にてクラスを変更した場合、シリーズチャンピオンの成績には反映しないものとする。

ユースクラスに於いて保護者または指導者がフィールドに入り、コースの誘導補助を口頭にて指示する事を認めるが、基本動作に関しての補助は出来ないものとする。

同点の場合の順位決定

審査点と同点になった場合、下記の選択肢の中から協議し最終順位に反映するものとする。尚、下記の選択は両騎乗者、両馬主、主催者の意見を聞いた後に主審審査員の判断で決定するものとする。

- 1、ランオフ（同順位の騎馬、騎乗者が再度コースを走り審査を受ける）
- 2、コイントス（馬の負担を考え、走行せず硬貨を投げて裏表で決める）
- 3、ペナルティ（走行でのペナルティが少ないものを上位者とする）
- 4、協議によるもの

サーキット

年間サーキットでの同ポイントでの順位の決定はあくまでも参戦数が多い順に順位分けする。

参加説明会と予選

- 1、主催者は競技前に参加説明会(ライダーズミーティングとする)にて、参加者又はその代理人(所属乗馬団体の代表者など)に競技進行を説明する事を義務付ける。
- 2、参加者又はその代理人(所属乗馬団体の代表者など)は参加説明会(ライダーズミーティング)に参加する事を義務付ける。また、代理人が参加した場合は、各参加者に説明会の内容を確実に伝えなければならない。
- 3、これらを怠った場合、主催者は参加希望者の参加を認めない場合がある、又 審査員は失権とする事が出来るものとする。
- 4、予選の開催は決勝前日に行われ、クラス別に分けずに行われる。予選では各課目でのアドバイスがなされ、予選総合ポイントの高い順に決勝の出走順が決まる。また、予選は任意での参加なので参加しない場合は先行出走とし、決勝参加は認める。予選不参加者

が多数いる場合は主催者がその出走順を決められるが、予選参加者より後発する事は出来ないものとする。

- 5、予選参加は任意とするが、主催者の判断にて参加説明会(ライダーズミーティング)と併用することが出来るものとする。その場合、予選説明会とし、参加説明を取り入れた予選とし騎乗者は別途に行われる参加説明会(ライダーズミーティング)への参加を義務付けないものとする。

表彰

- 1、競技終了後、10日以内に優勝者、準優勝者の表彰を行うものとする。3位以下に関しては主催者の任意での表彰とする。
- 2、クラス別ではなく、各クラスに分けて表彰をする。ユース(中学生年齢以下)が一般エントリーとして参加した場合、主催者の判断で事前にユースを分け、表彰する事ができる。
- 3、年間4戦をサーキットとし、各競技会のポイントを持って、クラス別年間最優秀馬及び、ライダーを表彰する。

抗議

各得点、順位、表彰にクレームがある場合は、競技終了後1週間以内に映像をもって抗議する事が出来る。主催者、審査員はその抗議を受けとめ再審し、誤審の無い場合は抗議者にその旨を報告する。誤審のある場合は当事者及び、関連各順位者に通告し、再表彰をしなくてはならない。

馬具及び、操作規定

- 1、鞍 安全で清潔な鞍及び鞍関連の馬具である事。その形(スタイル)には捉わらないが審査員が危険である又は虐待であると判断した場合、その使用は認められない。
- 2、ハミ スナッフル、カーブ共に使用は可能だが、正しく装着する事を義務付ける。カーブビットは 21.5cm の長さを越えるシャンクの使用を禁止する。また、9cm を越える高さのマウスピースの使用も禁止する。マウスピース下部に伸びるドーナッツやプロングマウスピースも使用を禁止する。メカニカルハックモアを含む機械式ハミと機械式のマウスピースの使用を禁止する。

- 3、手綱 スプリットレインに於ける片手手綱を基準とし、余り手綱は操作する側の手にまとめて垂らし、ルーズレインでのスムーズな操作を推奨する。また、一つにまとめて結ぶ事や一本手綱の使用も認める。手を使う課目(ゲートなど)以外、片手での操作を推奨するが、両手操作も認める。片手手綱、両手手綱共に操作中に頻繁に持ち変える事は望ましく無い。ロマーレインの場合、操作しない手は肩幅以上離し、余り手綱を鞭として使用する事を禁ずる。如何なる手綱の場合でも、余り手綱を鞭として使用する事を禁ずる。
- 4、拍車 騎乗者の自己判断で使用を認める。虐待と思われる先の鋭く尖ったものや、大小に関わらず極端なものは使用を禁ずる。また、腹帯の前方に於ける拍車及び、脚の使用は禁止行為とする。
- 5、鞭 如何なる場合も使用を禁ずる。

競技課目

A、基本課目

1、マウント(騎乗)及びデスマウント(下馬)

騎乗馬は騎乗時及び下馬時に静止状態を保たなければならない。騎乗者は騎乗馬と同一方向を目視し、騎乗又は下馬する。騎乗に関して、飛び乗り、乗り台や補助員の助けを借りる事は認められ、騎乗馬を静止させる助けにはならない。

2、ログ(ジョグ又はトロットオーバー)

設置された 60cm 以下の低障害を飛越する。接触する事無く、安全に越える。同一形のログが連続する場合は最低 90cm 以上 105cm 以内の間隔を空ける事とする。大木、枝塊等の形状物の飛越は最低 3m 以上の間隔を空ける事とする。

3、スラローム

設置された 6.4m(21ft.)間隔のポールを接触する事無く、予め決められた方向より進入し、左右交に安全に通り返ける。歩様に関しては潤滑(スムーズ)に動く事が前提になるので、出来るだけその歩度を変えない事を理想とする。

4、ゲート

設置された 扉(又はロープ)を騎乗馬、騎乗者共にバランスを

崩す事無く安全に開き通り返け、安全確実に閉める。一旦、扉(又はロープ)を持った手は閉めるまで放してはならない。

5、バック

設置された横幅最低 100cm のログ間を接触する事無く、安全に後退し、停止した後、前進またはサイドパスで通過する。

6、クランク

設置された最低横幅 80cm、高さ 30cm 以下のログ間を接触する事無く、安全に通り返ける。

7、ボックス

設置された縦横 1.8~2.1m 以内の正方形のログの中を接触する事無く、回転し、安全に通過する。コースレイアウト別に 90~450 度の範囲で予め決められた左右どちらかでの回転とする。

8、ブリッジ

設置された最低幅 90cm 以上、最低長さ 1.8m 以上の危険でない高さの壊れる事の無い模擬橋(木製を推奨)を安全確実に並足で通過する。

9、サイドパス

設置された高さ 30cm 以下のログを跨ぐ形で騎乗馬の前肢と後肢に入れ、ログに脚を接触する事無く、最低 1.2m 以上馬体を横に移動させる。

10、カーテン(トンネルなど)

設置された危険の無い、人口又は自然のトンネルを安全確実に通過する。

11、フラッグ運び

設置された旗(又は手に持てる移動物)を最低 5m 以上離れた A 地点から B 地点まで確実に移動する。旗の取り置き時には停止を推奨するが、現実性が見られた場合に限り、走りながらの動作も認める。旗の大きさ、材質は主催者、又は審査員におけるコースレイアウト、或いはクラス別に変更する事が出来る。

B、追加課目

主催者の選択で追加課目を最低 1～10 課目まで追加しなくてはならない。コースの事前認証を行う上で、審査員との打ち合わせによる安全面を前提とした規定を決めなくてはならない。

(参考例) 1、ヒルクライム 2、ダウンヒル 3、ステップ
4、ローピング 5、プール(水郷) 6、馬運車積み込み
7、変形ログオーバー 8、ロールバック他、

* が今年度の改正部分です。

2019 年間スケジュール

第1戦 4月13・14日 熊本県 阿蘇市 夢大地グリーンバレー

第2戦 6月8・9日 宮崎県 宮崎市 TMC

第3戦 9月8・9日 宮崎県 霧島 サウス・ヒル・スティーブル

第4戦 12月14・15日 熊本県 阿蘇市 ブルーグラス

競技理念

騎乗馬、騎乗者は如何なる場合も冷静沈着 且つ、騎乗馬は常に騎乗者の指示を素直に理解し自ら動く事を理想とする。

各課目は安全で確実を前提に、スムーズ且つ、スピーディに通過出来る事を理想とする。

馬とのコミュニケーションを認識し、それを最重要視する。如何なる場合に於いても、騎乗馬と騎乗者の安全を最優先した上で、実践における正確な技術の習得と向上、馬への幅広い知識の習得を目指す。

クラブ間の壁を越え、競技を介在として集まった参加者及び主催者との交流を図る。

これを持って 2019 年度版 S. H. O. T Japan Cowboy Race

競技規定とする。

競技発起人

梅木 康裕

熊本 栄治

競技委員 主審判員

玉置 徹